ひろよしあつこ
広吉敦子の
目黒・生活者ネットワーク
市民が育てる 東京・未来
おひさまレポート
OHISAMA REPORT 2016. 5. 1　No. 96

発行責任者/広吉敦子　〒152-0003 目黒区碑文谷6-1-19 アネックスST 1階　TEL/FAX 03-3791-8069　http://meguro.seikatsusha.net

— 2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて —

世界に誇れる街路樹を!

四年後に向け、暑さ対策として保水性舗装と遮熱性舗装の検討がすすめられています。しかし、保水性舗装は舗装にしみこんだ雨水が蒸発するときの気化熱を利用して路面の温度上昇を抑える効果があるため、晴天が続けば散水が必要になります。また、遮熱性舗装は太陽光の一部を反射させ舗装への蓄熱を防ぐことで路面の温度上昇を抑える効果があるため、日陰になる場所には効果がありません。その上、工事費は通常舗装（1,000円／㎡）に比べ、3倍・4倍にもなります。今、求められているのは景観を高め、暑さをしのげる街路樹を育てることです。

「道」の歴史と街路樹の機能

1919年道路と街路それぞれの構造令が制定され、道路は交通を主に担う、街路は街並みを整え高質な都市空間を創り出すためのものでした。街路には交差点広場、植樹帯などが設けられ、関東大震災での延焼を防ぎました。震災復興事業で防災の視点からも銀座の昭和通り等、道路緑地のある街路が整備されました。しかし、第二次世界大戦後に制定された現行道路構造令により、人よりも車を優先した道路拡幅・高速道路整備などで道路緑地は縮小・撤去されました。その後、数回にわたり改正され、2015年の改正で道路の機能として空間機能（環境・防災など）が位置づけられました。

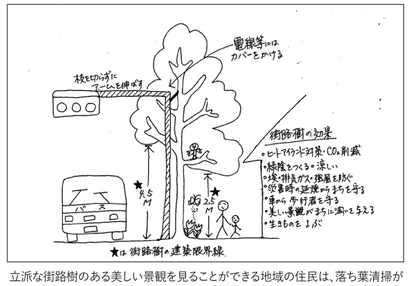
暮らしを支える社会空間として

ヒートアイランド対策には 樹木や緑地を増やすことが重要です。近年、屋上緑化や壁面緑化なども緑被率を上げるために取り入れられていますが、「地下水とつながりをもつ緑を育てること＝地面（土）に直接植えること」は雨水を涵養し、都市型洪水を軽減させるためにも大変有効です。しかし、都会ではたくさんの樹を植えるための大規模な空地を得ることはできません。そこで街路樹を活用するのです。**既存の街路樹の剪定方法を見直すこと、足りない場所にはすぐに生長の早い樹を植えることで4年後には立派な街路樹ができあがります。**

心地よい空間ができあがれば、クーラーを効かせた建物から人々が街に繰り出し新たなコミュニティーができ、活気が生まれます。舗装に頼ることばかり考えずに、オリンピック開催を機会に東京のまちに緑豊かな街路樹を広げ、豊かさと本当の心地良さを取り戻すべきです。

まだ間に合う!

東京都では平成28年3月末までの10年間で街路樹を100万本に倍増する計画を立て、現在94万本強まで増えていますが、夏の道路の暑さは深刻です。街路樹があっても強い剪定により、ほとんど丸裸で緑陰ができないことが原因です。



立派な街路樹のある美しい景観を見ることができる地域の住民は、落ち葉清掃があまり苦にならないと回答し、逆に切りすぎた酷い景観のもとでは落ち葉清掃を負担に感じ、落ち葉への対応を求める声が多かったというアンケート結果もあるそうです。苦情の度に必要以上に剪定するよりも、美しい景観をつくる方が得策では？

ぶつ切りしたままの街路樹で世界の人々をお迎えしてよいのか！何のための街路樹だかわからないような剪定。ひこばえや胴吹き枝が歩行者や自動車の通行の妨げに

本当のおもてなしはこうでなくっちゃ！女子マラソンは８月２日（35.1℃）、男 子 は８月９日（33.4℃）、トライアスロンは8月3日（35℃）、パラリンピックは8月25日から開催される予定です。8月1日からの1週間は35℃を下回る日がなく、連続した1週間で1日の最高気温が最も高い期間となっている。
＊（ ）内の温度は2015年実績

東京・生活者ネットワークは 2016年夏の参議院選挙「比例代表区」において 大河原まさこさんの推薦を決定!

目黒・生活者ネットワークは「地球は未来の子どもたちからの預かりもの。地球規模で考え地域で行動する」ことを信条にいつも市民目線を心がける大河原まさ子さんを応援します。

【大河原まさこプロフィール】

1953～	名古屋で生まれ、横浜で育つ。横浜市立城郷小学校、フェリス女学院中学・高校、国際基督教大学卒業。映画舞台製作会社入社。千葉で生活クラブ生協加入。東京に転居し、3人の子育てをしながら食品安全運動や環境問題などに関わる
1993～	都議会議員（生活者ネットワーク3期10年）。「化学物質子どもガイドライン」「遺伝子組み換え食品の表示義務付け」「地下水保全ガイドライン」などを提案。
1999～2006	東京・生活者ネットワーク代表委員。
2007～	参議院議員（東京選挙区でトップ当選／1期6年）。都市農業推進・公共事業チェック・チャイルドライン支援・保育問題などの議連の事務局長。TPPを慎重に考える会・原発ゼロの会などで活動。
現在	リベラル市民政治研究所代表、自治体議員立憲ネットワーク顧問、環境まちづくりNPO運営委員など。

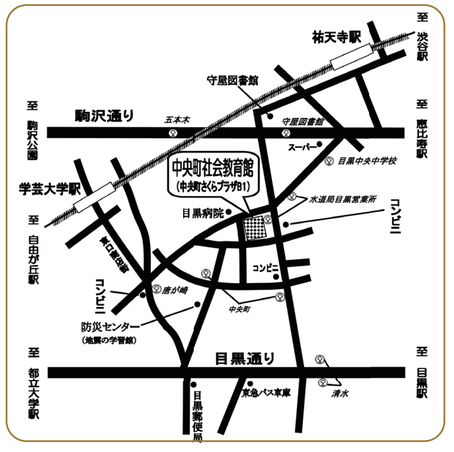
インフォメーション information

お申し込み・お問い合わせ　目黒ネット　広吉敦子事務所まで　TEL/FAX: 03-3791-8069　E-mail: meguronet@m2.dion.ne.jp

～支援者学習会～ コミュニケーションのとりにくい子どもや大人をどう支援するか

教育現場で発達障害が増えてきたと言われていますが、本当にそうなのか。長年子どもの医療と教育に関わってきた児童精神科医の石川憲彦先生より、支援者の心構えを伺います

日　時：6月30日（木）9時半　受付開始
場　所：中央町社会教育館（さくらプラザ）第6研修室
定　員：30名
参加費：500円
締　切：6月24日（金）
講　師：石川　憲彦　児童精神科医（林試の森クリニック）



講師プロフィール

1946年生まれ。東京大学医学部卒。小児科医、精神科医として障がいを持つ子どもやその親たちと「医療と教育を考える会」を結成し活動。
2004年に目黒区に「林試の森クリニック」を開業。主な著書に『こども、こころ学』『みまもることば』（ジャパンマニシスト社）『発達障害という希望』（雲母書房、高岡健氏との共著）

【編集後記】近くの線路沿いの土手には、よく見るとたくさんのつくしが生えている。しかし、そこを通る人たちの目は満開の桜の花に奪われてしまい、つくしに気づく人はほとんどいない。新しいスタートの時、足元をしっかり見つめなおすと、意外な発見があるかもしれない。（K子）